

最新！宗教情報 ////////////////////////////////////// No. 7

◎サルコジ仏大統領、改憲後初の議会演説でブルカに不快感

【AFPBB News, 06/22】フランスのニコラ・サルコジ (Nicolas Sarkozy) 大統領は 08 年の改憲を受けて、21 日の議会での大統領演説で、イスラム教徒の女性が身体を覆って着用する衣服ブルカについて「フランスでは歓迎されない」と発言した。

サルコジ大統領は「ブルカは宗教の象徴ではなく、抑圧のしるしだ。フランス共和国の領土では歓迎されない」と述べた。

議会では一部の議員がこれに同調し、国内に居住するイスラム教徒の女性が公の場で、全身をブルカで覆うことが、フランスの世俗主義と女性の権利を侵害するものではないかと主張し、特別調査を求めている。

だが、仏ムスリム評議会 (French Council for the Muslim Religion, CFCM) は、ささいな事柄について国会議員は時間を浪費していると批判している。代表の Mohammed Moussaoui 師は前週、「(ブルカに関する特別調査は) イスラム教とフランスのイスラム教徒に烙印 (らくいん) を押すようなもの」とけん制した。

一方で、パリ (Paris) のグランモスクの代表、Dalil Boubakeur 師は、「(大統領の考え方は) フランスの世俗主義と共和主義にかなっている」として、サルコジ大統領を支持している。

■オバマ大統領とは意見が分かれる

この件に関し、サルコジ大統領はバラク・オバマ (Barak Obama) 米大統領とは一線を画している。2 週間前に訪仏しサルコジ大統領と会談したオバマ大統領は、「西洋諸国は、イスラム教徒が適当と考える宗教的行為を妨げないようにすることが重要」と語り、女性のイスラム教徒がヘッドスカーフを着用する権利を擁護した。

これに対し、サルコジ大統領は「公務員は、カトリックであろうとユダヤ教徒であろうと、ギリシャ正教、プロテスタント、イスラム教徒であろうと、宗教的なものは身につけてはならない」と反論。また、ヘッドスカーフは、自分の意志で着用する場合には認められる、と付け加えた。

■2004 年にはヘッドスカーフを禁止

推定 500 万人と欧州最大のイスラム教徒人口を抱えるフランスでは 04 年、世俗主義を擁護するため、公立校でヘッドスカーフなど「明白な」宗教的シンボルの着用を禁止する法案が可決された。

08 年には、フランス国籍を申請したイスラム教徒のモロッコ人女性について、ブルカを着用しており夫に「服従」した生活を送っているとの報告があったため、申請が却下されるという事件があった。

公式データはないが、フランスでブルカを着用している女性は数千人いると推定されている。

<http://www.afpbb.com/article/politics/2613980/4285229>

1. 排他主義

- ✳ 伝統的なカトリックの宗教理解
 - ◆ 「教会の外に救いなし」
- ✳ プロテスタントの保守派
- ✳ 特徴
 - ◆ キリスト教と他宗教との間の「断絶」を強調
 - ◆ 聖書の権威を強調——逐語靈感説
 - ◆ キリスト論を強調——K・バルトへの言及

13

2. 包括主義

- ✳ 第二バチカン公会議以降のカトリック
 - ◆ 宣言「我らの時代に」(Nostra Aetate)で他の宗教の真理性を否定しないことを確認
- ✳ 1960年代以降の世界教会協議会(WCC)における他宗教理解
- ✳ 特徴
 - ◆ 救済は他の宗教においても可能(神の恵みの普遍性)
 - ◆ キリスト教と他宗教との間には包括的な上下関係があると考えられる。

14

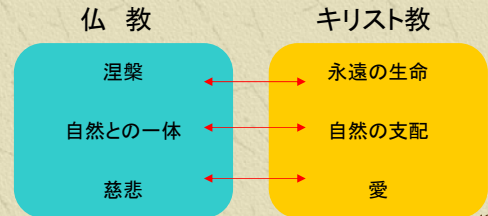
包括主義の例(1)

- ✳ カール・ラーナー
 - ◆ 「匿名(無名)のキリスト者」
 - ◆ 諸宗教の存在意義はキリスト教との一致の程度によって計られる。
- ✳ ハンス・キュンク
 - ◆ 世界平和の視点から宗教間対話の必要性を説く。
 - ◆ 異なったパラダイムが同時に存在している状況が、宗教内の紛争と宗教間の紛争の一因となっていると考える。
 - ◆ エキュメニカルな真理基準
 - ・ 人間的であること(das Humanum)

15

包括主義の例(2)

- ✳ パウル・ティリッヒ
 - ◆ 晩年、M・エリアーデと宗教史に関する共同のゼミを持つ。キリスト教と仏教の対話にも関心を向ける。



16

3. 多元主義

- ✳ 宗教的多元性は恒常的なものであり、それはいかなる単一の宗教にも取って代えられることはない。
- ✳ 諸宗教の中には固有の真理契機がある(ただし、すべての宗教が救済的意義を持っているわけではない)。
- ✳ いかなる宗教も、最終的・絶対的・普遍的な真理を保持していると言うことはできない。
- ✳ キリスト教信仰にとってイエスは独特の意味を持っているが、その独自性は排他的な形で優越性・超越性と結びつけられるべきではない。

17

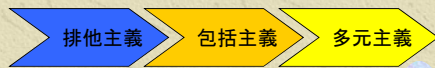
多元主義の例

- ✳ 倫理的・実践的動機づけから
 - ◆ 宗教多元社会において絶対的な真理主張を行うことは非倫理的であると考える。
 - ◆ 解放の神学、フェミニスト神学からの影響
 - ・ P. ニッター、R. R. リューサーら
- ✳ 宗教哲学的・理論的動機づけから
 - ◆ ジョン・ヒック: 「実在者」「究極者」
 - ◆ レイモン・パニカー: 複数の神的実在者

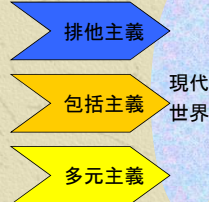
18

3つの類型の相互関係

※ 多元主義者による進歩史的理解



◆ 世俗化・グローバル化する世界の実情



19

宗教間対話の課題と展望

- ※ 理論的な共通基盤を求めるより、「宗教経験」の場(トpos)を共有すること。
- ※ 神論および「神の国」の再解釈。救済の現実への視点(特に抑圧された者に対する視点)。解放の神学からの洞察。
- ※ 人間論の展開。特に(アジアの)フェミニスト神学との関係において。
- ※ 終末論的な知恵。「唯一性」の体験的洞察。「絶対性」のリハビリテーション。

20

参考文献

- ※ ジョン・ヒック『宗教多元主義——宗教理解のパラダイム変換』(間瀬啓允訳)法蔵館、1990年。
- ※ ゲイヴィン・デコスタ『キリスト教は他宗教をどう考えるか——ポスト多元主義の宗教と神学』(森本あんり訳)教文館、1997年。
- ※ 小原克博「宗教多元主義モデルに対する批判的考察——「排他主義」と「包括主義」の再考」、『基督教研究』第69巻第2号、2007年。→ [小原克博 On-Line](#) で閲覧可能

21